



定期総会会場から（上中）「会員の集い」に参加した皆さん（一般参加の方を含む）（上右）開会礼拝奨励者真壁牧師



（下左）「会員の集い」講演者川上直哉氏（東北ヘルプ事務局長）（下右）委嘱状を受けたリーダーたちを励ます

## 千葉 YMCA ニュースボード

2018年7月1日 第231号

[www.ymcajapan.org/chiba/](http://www.ymcajapan.org/chiba/)

### 総会で「使命」を唱和

6月9日に千葉YMCA第47回定期総会を千葉センターで開催しました。開会礼拝で真壁巖牧師（日本基督教団西千葉教会）から「神さまの望みどおりに生きるとは？」と題して奨励をいただきました（マタイによる福音書21章28-32節に基づく）。

議事では昨年度の事業・決算報告、今年度の事業計画・予算が承認され、常議員の選出が行われました。

続いてボランティアリーダーへの委嘱状交付と、チャリティーラン益金事業（キャンプ）の報告がありました。

総会後半の「会員の集い」では、東北ヘルプ（＝仙台基督教連合被災支援ネットワーク）事務局長川上直哉牧師（日本基督教団石巻栄光教会）の講演「私たちは何をすべきか・何ができるか 被災地東北の現場から」を伺いました。

### 「被災地東北の現場から」

川上氏の講演要旨は次のとおり。

「東北ヘルプは大震災後直後に活動を開始した。キリスト教は日本では少数派だが、地域に密着し、かつ世界に直結している、という強みを活かして、被災地の“支援者を支援する”という姿勢で一貫して取り組んできた。

支援者は尽力するにつれ“自己実現の罫”にはまりやすい。常に、人々を“これ以上、傷つけない”ように自戒しつつ活動しなければならない。

被災地は、第1期（窮迫）、第2期（復旧）を経て、第3期（復興）へ向かう。1、2期は『終わるために励む』（尊厳の回復、寄付文化の構築）、そして3期では『続くように励む』（生業と支援の両立）ことが求められている。

原発事故の放射能の影響はまだ解明途上だが、子供たちの成長を見守り、健康を支えていくことが大切である。キリスト教の、そしてYMCAの果たす役割がある。（詳細は川上氏著書参照）

参加者一同で「千葉YMCAの使命」文を唱和し、思いを新たにしました。

### ◆夏キャンプ参加受け付け中

千葉YMCAの夏キャンプと夏休みプログラムの参加者を募集中です。別紙またはホームページに掲載の案内をご参照のうえ、お申込みください。

### ◆今年のチャリティーラン 10月13日

千葉YMCAの今年（第21回）のインターナショナル・チャリティーランは、船橋市運動公園で10月13日（土）の開催となります。この行事の収益金により、障がいのある子どもたちを励ますキャンプを実施します。全国のYMCAが同じブランドで開催しています。

### ◆船橋で障がい者理解体験教室

市内の小学校で6、7月に3回開きます。協力希望の方ご連絡ください。

このプログラムは船橋市社会福祉協議会や民間ボランティア団体と協力して、学校からの要請に応じ、出前の「車椅子体験」、「視覚障がい体験」、「高齢者体験」の教室を実施するものです。

○千葉センター 043-222-3811

○船橋地域デポ 047-425-6366

○千葉市少年自然の家

0475-35-1131

ニュースボード編集：青木一芳（理事）

メール kkaoki@myad.jp